



明日へ未来へつながる農業③

J Aみなみ信州管内では、飯田市の花木・果樹農家4戸と県地区農業振興会議が3年前からクラブアップルの栽培に取り組み始めました。フサスグリやヒベリカム、ナンテンなど、季節の実もの花木が周年出荷されていますが、9月末から10月にかけては、出荷品目が少なくなる端境期。赤い実と緑の葉のコントラストが美しいクラブアップルは、秋本番、クリスマス前のシーズンにびっぴりの花材として注目されています。見た目の華やかさから、ブライダルシーンでも需要が見込まれます。

クラブアップルにはさまざまな品種があり、実の色や大きさ、付き方、枝の伸び方などが違います。県の栽培農家では、実験的に何種かを植え付け、管理方法などの検討を重ねています。

取り組みを始めた農家の1人、関島武俊さんは、40年ほど前からハウスでのカーネーション栽培を始めた、同管内ではパイオニア的存在の花き農家です。2年、3年先の市場の流行をよんで、カーネーションの苗を発注し、新種も積極的に取り入れています。スノーボール、ユーカーリ、スモークツリーなどの花木も栽培しています。



暮らしを彩る南信州の実もの花木 初秋の出荷品目として期待される クラブアップルの栽培

南信州で周年出荷 季節の実もの花木



南信州産の実もの花木と花を使ったアレンジメント



フサスグリ(5~6月)

私たちの暮らす南信州から全国に向けて、季節の実もの花木が年間通して栽培・出荷されているのをご存じですか？フサスグリやヒベリカム、シンフォリカルポス、ナンテンなど、名前からは想像がつかなくても見覚えのあるものばかりです。花束やアレンジメントフラワーにそっと入っていることも多く、季節を演出するのに欠かせない存在でもあります。



ヒベリカム(7月~)



ブラックベリー(7・8月)



シンフォリカルポス(9月~)



ナンテン(12月)

記事に関する問い合わせ ● 飯田市農業振興センター ☎0265・21・3217

露地で栽培する実ものは「季節を感じるもの。暮らしのゆとりを感じられるもの」と関島さんは話します。花のアレンジメントに、季節の実ものを「枝そえるだけで、空間性が広がったり、物語が生まれたり、花材として欠かせない存在です。」

遊休農地の活用や

老木化した果樹の後継品目にも

関島さんの圃場にはクラブアップルが品種ごと1列ずつ植えられ、枝の伸び方などの違いが目でわかります。「これは、実がなっただけと重さで枝が折れちゃう。こうは枝が太いけど実が付かない。下のほうばかりに実が付いて上のほうに付かない」と、木を見ながら教えてくれる関島さん。

実付きや葉の状態のバランスの良い1メートルほどの長さの枝が出荷対象。自然に任せて成長させるだけでは、出荷ができません。クラブアップルは、リンゴと同じ仲間なので「整枝などの栽培管理方法はリンゴの果樹農家の方がわかっているのだからいいのでは」と話します。

関島さんの圃場の周りにもリンゴの畑があります。消毒などもリンゴと同じため、花木の栽培管理をする上で果樹に悪



関島武俊さんの圃場。フブヘンシス、ミヤマカイドウ、ミツバカイドウなどのクラブアップルが植えつけられています。10月には出荷サンプルを持って市場を訪ねる予定です。

影響を与えることが無く適合できると考え、この農地を圃場に選んだそうです。クラブアップルは、観賞用の園芸品種というだけでなく、自家結実性の弱いリンゴのフジの受粉樹にと果樹園に植えられていることもあります。ミツバチなどによる自然受粉が期待されていますが、花の咲く時期のタイミングが合わないという受粉できないという難点もあり、これからの研究が待たれるところです。

J Aみなみ信州営農部の坂巻さんは、「傾斜地の果樹園は、果樹をやめても畑や田んぼはできないが、クラブアップルなら、管理もリンゴと一緒だし、高齢者にも扱いやすいのでは。遊休農地や老木化した果樹の後継品目としての活用も考えられる」と話します。